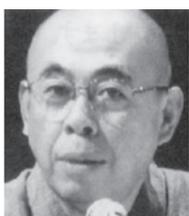


一人じゃないよ 「ケアする人のケア」を学ぶ会2015

今私たちが暮らす社会には、さまざまな困難を抱えた人々と、その人たちを支えている多くの方がいます。高齢の人や障がいのある人、病気の人世話を担っている人などへのケアを社会全体のテーマとして考え、支えあえる社会を創っていくためのアイデアや実践を学ぶ機会・場として、「ケアする人のケア」を学ぶ会を開催します。どうぞ、お知り合いの方をお誘いいただきご参加下さいますようご案内申し上げます。

| 開催日・講師 | 演 題 ・ 内 容 | 講 師 紹 介 |
|---|---|---|
| 7月18日 土 14:00~16:00 <small>児童精神科医</small> 夏苺郁子  | 家族・当事者・精神科医の三位一体の私から、お伝えしたいこと ～人が回復するのに、締め切りはありません 私は母が精神疾患であったことを公表するまでは、「あなた病気の人、私治す人」という上から目線で診療をしていました。家族であったこと・自分も精神科に通院した当事者でもあったことを認められるようになった今、医療者自身がまず精神疾患への偏見をなくす努力をすべきだと気がきました。そうした反省の上で、誰もが罹る可能性がある精神疾患についてどう考えていくべきなのか、家族・当事者・精神科医の三位一体であった私の立場を踏まえ、お話をさせていただきます。 | 北海道札幌市生まれ。浜松医科大学医学部卒業、同精神科助手、共立菊川病院、神経科浜松病院を経て、2000年に夫と共に、やきつべの経診療所を開設。 児童精神科医、医学博士、精神保健指定医、日本精神神経学会専門医、日本児童青年精神医学会認定医、日本統合失調症学会会員、日本夜尿症学会会員。 著書 心む母が遺してくれたもの(日本評論社)、もうひとつの「心む母が遺してくれたもの」(日本評論社) 他 論文 「末期癌患者の心理過程についての臨床精神医学的研究」精神神経誌 第86巻第10号(学位論文)、「人が回復する」ということ 精神神経誌 113巻9号 他 訳書 認知療法入門(星和書店、共訳)、いやな気分よ さようなら(星和書店、共訳) |
| 8月22日 土 14:00~16:00 <small>聖学院大学大学院教授</small> 窪寺俊之  | 寄り添う力 貧困、病気、孤独、死別、どれも避けたいことです。でも、誰の人生でも一度は経験します。あまりの辛さで立ち上がれず、毎日、泣き明し、人生を呪うこともあるかもしれません。そんな時、黙って「寄り添ってくれる人」がいたら立ち直れるかもしれません。今、被災者も、高齢者も、若者も、自分の人生を負うことに疲れています。与えられたいのちを輝かせるために、「寄り添う」中に秘められた力を考えてみましょう。 | 1939年東京生まれ。 現在、聖学院大学大学院教授(こども心理学科長)。埼玉大学卒業(教育学部)、東京都立大学大学院(臨床心理学専攻)に学び、米工モリー大学神学部卒(神学)、コロンビア神学大学院卒(牧会学)。博士(大阪大学)。 著書訳書:「スピリチュアルケア入門」「スピリチュアルケア学序説」「スピリチュアルケアを語る」など多数。 臨床スピリチュアルケア代表、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団評議員。 |
| 9月12日 土 14:00~16:00 <small>静岡いのちの電話理事長</small> 中井弘和  | 『ともに生きるいのちの倫理からケアを考える』 3.11の経験、自殺者の多発、貧困など、いのちの危機にある日本の社会情勢の中で私たちは未来に向けていかに生きるべきかが深く問われている。人間はケアし、ケアされる存在であることを前提に、苦しむ人々へのケアの在り方を通して、新しい時代への生き方を探る。特に、私がライフワークとしている稲の自然農法研究や、ここ7年ばかりかかわってきた「いのちの電話」活動を踏まえて「共に生きる」の意味を考えたい。 | 経歴: 1939年福井県武生市(現越前市)生まれ。農学博士。専門は「植物育種学」。1965年東京農工大学農学部卒業、京都大学大学院農学研究科修士課程に進学。1969年より静岡大学農学部に移り、助手、助教授を経て1989年から教授。1995~1999年静岡大学農学部長。2000~2004年静岡大学副学長。1979年~1982年国際原子力機関(IAEA)派遣専門家として働く(ハングラディッシュ・マイメンシン、オーストラリア・ウイーン)。棚田の修復と自然農法による稲作りの学びの場「清沢塾」を主宰(2000年~)。社会福祉法人「静岡いのちの電話」理事長(2008年~)。著書に「生命(いのち)のかげやき一農学者と4人の対話」(野草社、2006年)ほか。 |
| 10月17日 土 14:00~16:00 <small>ふじ内科クリニック院長</small> 内藤いづみ  | 優しさと強さをとりもどして 生きていく 在宅ホスピスケアで学んだこと 私は在宅でのいのちの看取り、在宅ホスピスケアを20年近く続けている医者です。かつてイギリスで学んだときに、死にゆく人と家族の味わう苦しみと、それを助けるために差し伸べる手の温かさは、世界共通だと知りました。1970年代に著書「死ぬ瞬間」で死にゆく人の心のプロセスを世界で初めて発表したエリザベス・キューブラー・ロス医師は、こう言っています。 「まず、感情を隠さない。思い切り泣く。叫ぶ。絶望の底まで落ちる。大丈夫などと見せかけの強がりはいらない。これ以上落ち込めないと自覚した時、心は静かに浮かび上がっていき、自分を支えていたものは何かを思い出せるようになる。家族の愛、友情、尊敬する師匠、信念、信仰、風景、歌声、何でもよい。それらが自分の心に感動のエネルギーを蘇らせることに気づく。ユーモアの力も大きな味方になる」 私の患者さんの多くが、これらにより力を得たことをみてきました。 | 1956年山梨県生まれ。 福島県立医科大学卒業後、東京女子医大内科などに勤務。61年から7年間、英国のホスピスで研修を受け、平成7年に甲府市にふじ内科クリニックを設立。山梨県を中心に在宅ホスピス医として活躍している。(財)山梨県青少年協合理事長。内閣府女性人材バンク登録(全国で160名)。 ■著書/「あなたを家で看取りたい」(ビジネス社)など。 |
| 11月21日 土 14:00~16:00 <small>神宮寺住職</small> 高橋卓志  | 四苦抜苦(しくばっく) ~一人称の死を考える~ 四苦とは生苦・老苦・病苦・死苦のことをいう。いのちにまわりつくそれぞれの「苦」に私たちはどのように向き合い、緩和し、解消していくのか。それは容易なことではない。昨年、今年とヨーロッパを訪ね、とくに死の周辺取材した。安楽死、自殺ほう助、徹底した緩和ケア、ホロコーストなどの現場で、自分自身(一人称)の死を考えた。そんな中で「四苦」を「抜苦」する道筋が少し見えてきたような気がする。 | 生年月日: 1948年12月4日 松本生まれ 宗教法人 神宮寺住職 (主な活動) 1981年 国際障害者年を契機に「松本ふれあい広場」などボランティア活動に深く関わり、1991年JCF(NPO法人 日本チエルノブイリ連帯基金)を鎌田實医師らとともに立ち上げる。信州大学医学部等の医療機関の協力を得ての医療支援にて6年余り事務局長を務め、ベラルーシを36回往復する。3.11以降福島での支援を行う。震災直後の石巻で諏訪中央病院と連携し支援活動を展開した。 いちを取り巻く諸問題を一宗教者としての視点で捉え、さまざまなNPO法人を立ち上げる。 NPO法人「ケアタウン浅間温泉」代表理事 他。 神宮寺に拠点を置くNPO法人「アクセス21」はタイ、チェンマイのHIV感染者を含むコミュニティの職業支援として作業衣を作り、日本で販売するプロジェクトを展開中。寺では「尋常浅間学校」を開講、10年100回の魅力的な授業を行い、2007年5月に終了し、記録集を作る。これからの「寺のあり方」を模索、実践している。 |

募集人数 各回80人 (但し、定員になり次第締め切りをさせていただきます。また、全日程を希望される方を優先させていただきます。)

聴講料 7,000円 (全日程を聴講される方) / 1,500円 (1回の聴講に付) ☆申込み受付後にお送りする郵便振替用紙にてお振込みください。

会 場 静岡県勤労者総合会館3階 ALWFロッキーセンター大会議室(静岡市葵区黒金町5-1)
*JR静岡駅北口から徒歩10分

申込み・問合せ先 特定非営利活動法人 **静岡県ボランティア協会** 〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館2階
tel.054-255-7357 fax.054-254-5208 E-mail: evolnt@mail.chabashira.co.jp

「ケアする人のケア」を学ぶ会2015 参加申込書

| | | | | | | | |
|---|-----|---------|-----|---------|----|----------|------------|
| フリガナ 氏 名 | () | 性 別 | 男・女 | 年 齢 | 歳代 | 職 業 | 本協会の会員・非会員 |
| 住 所 | 〒 - | tel () | - | fax () | - | e-mail : | - |
| (聴講を希望される枠に○印をつけてください) | | | | | | | |
| A = 1回目 7月18日 B = 2回目 8月22日 C = 3回目 9月12日 D = 4回目 10月17日 E = 5回目 11月21日 | | | | | | | |

郵送、FAXまたはEメールでお申込みください。メールの際は、件名に「ケアケア申込み」と明記してください。

●表紙写真: 東日本大震災被災地へ植栽した浜松市中区「ばらの都苑」の花桃